



## 育心

### 「河童」のひとり言

ホツとハウス in おおの代表  
梅林厚子

「お前は、この世界に生まれて来るかどうか、よく考えた上で決断しろ」と

この言葉は、「蜘蛛の糸」(羅生門)で知られる作家、芥川龍之介さんの「河童」という短編小説の二語です。とても衝撃的な文章で、今も時々思い出すことがあります。

河童の世界に迷い込んだ人間が、河童の世界のことをいろいろと語っているのです。

「河童のお産杖、可笑しいものはありません。一瞥、お産をするところ、父親は電話でもかけるから、妊娠の生船船に口をつけ「お前は、この世界に生まれて来るかどうか、よく考えた上で決断しろ」と大きな声で叫ぶので、す……、母ねられたお腹の中の子は「僕は生まれたくありません」と、返事をします。」その子は自発的に出生を拒否します。

理想郷の表現ではなく、人間界のあ



らゆるものを諷刺している小説だと言われています。

わたしはこの小説を読んで、このように、生まれてくる子どもに選択の権利があるとしたら、この私を親として選んでくれるだろうか、選んでもらえないかなんか生きているだろうか、と即ちしてしまいました。また私自身もわが疑、わが父の子として、生まれることを選んだらどうか、と思いましたが……

そして「河童」の世界でなくてよかったと胸を撫で下ろしたくなると同様に、「河童」たちの言いつに對してすべて否定的な気分にもなりませんでした。

明確な答えを出すこともなしでま

せん。しかし練あつてこうして今日、目の前にいる愛おしいわが子と、計り知れない条件の中で親子となったことは事実です。実に不思議な、不思議な、不思議な出会いだと言わざるを得ません。

お腹の中に授かった時点で、親子の間隔が縮められたわけですが、共に胎内であり、右も左も分からず、右往左往しながら無我夢中の子育てが始まります。育てているつもりが、子どもの笑顔や寝顔に励まされ、子どもから元気を貰っている自分自身に気づかされたりもします。

一人で立っているとき、多いたと喜び、どうして分かってくれないのと涙し、無我夢中の子育ては、少しずつ私を親たらしめてくれているようです。そんな子どもにも「私を親として選んでくれてありがとう」と心の底からこみ上げてきます。

そして、河童はひとり言を発しているかも知れません。

「あなたの子どもは、ほかの誰でもないあなたを選んで生まれたのだ。あなたでなければならぬのだ。人間世界の親たちよ、自信を持って生きて欲しい。子どももまた、あなたを見まもっててくれる。」と。



是非「ないおん」とは、心に喜びを感じていく世界、夢を夢と見守りながら生きていく世界なのです。

## ないおん編集室

こちらに園名・寺名をお入れします。